

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 今井 直幸

論 文 題 目

Echoic Features of Lymph Nodes with Sarcoidosis  
Determined by Endobronchial Ultrasound

(超音波気管支内視鏡を用いたサルコイドーシス患者における  
リンパ節の超音波所見の解析)

論文審査担当者


名古屋大学教授

主 査 委 員

後藤 秀実 

名古屋大学教授

委 員

長 総 恒之 


名古屋大学教授

委 員

後藤 百万 

名古屋大学教授

指 導 教 授

長谷川 好規 

## 論文審査の結果の要旨

超音波内視鏡ガイド下経気管支針生検(EBUS-TBNA)はサルコイドーシスを含む縦隔疾患に対し、低侵襲で高い診断能を有する手技である。今回、我々はサルコイドーシスにおける縦隔リンパ節の超音波所見を解析し、悪性疾患と比較・検討した。

結果、サルコイドーシスのリンパ節は1)円形、2)辺縁明瞭、3)内部均一、4)内部構造が保たれていた。この結果から形状、辺縁の性状からは肺がんと区別することは困難と考えられたが、内部均一性および内部構造の保持に関しては両群で有意差を認め

専用ソフトによる内部均一性の解析では標準偏差のカット値を15に設定することで両群を良好に判別することが可能であり、この際の感度は88.1%、特異度は93.2%、診断精度は91.1%、曲面下面積は0.965であった。

1. 内部均一性の解析が内視鏡操作時にリアルタイムに行うことは、現行の機器には標準装備されていないが、操作画面をアウトプットし、外付けの機器の接続することでリアルタイムに行うことは可能である。

2. 本試験では悪性疾患とサルコイドーシスの比較を行ったが、結核性リンパ節炎など他の良性疾患との鑑別は行っていない。

3. 本試験はretrospectiveに解析を行っているが、今後他施設でprospectiveに解析を行う予定であり、プロトコール作成中である。

以上の理由により、本研究は博士(医学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。



試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	今井 直幸
試験担当者	主査 後藤 秀史 指導教授		長谷川 好規	後藤 百子

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. リンパ節の診断のための解析を内視鏡操作時にリアルタイムに施行することが可能かどうか。
2. サルコイドーシス以外の良性疾患のリンパ節を超音波診断可能か。
3. 本試験が後方視・前方視のいずれかの解析なのか、また後方視的解析であった場合、今後前方視解析を行う予定があるかどうか。

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、呼吸器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。